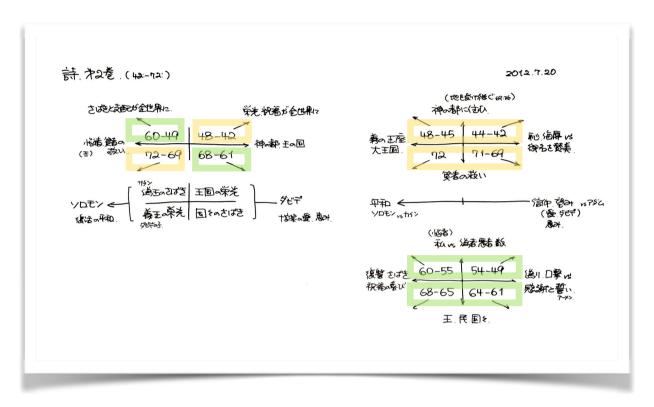
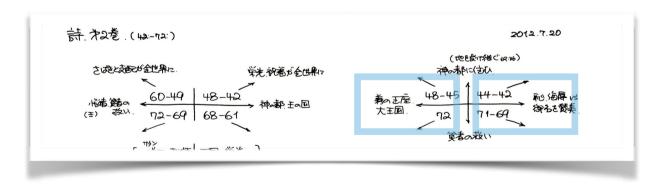


詩篇第二巻 詩篇42-72篇



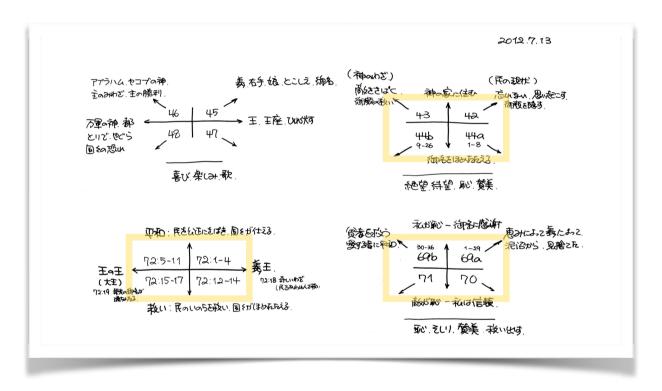
詩篇第2巻、詩篇42篇から72篇までの分析をしてきました。少し長いですね。4つに全体を分けたりしていますけれど、8段落に分けるのが全体を見るときには良いかと思いますね。42から44、45から48。次にこちらに飛びます(49-54)。全体としては、1(42-44,45-48)、2(49-54,55-60)、3(61-64,65-68)、4(69-71,72)という順番で見ます。



72篇のソロモンが王となる話と45篇から48篇までの神の都のところが、シェバの女 王が出てくる箇所との平行が見えると思いますし、42篇から、69篇からの穴の中から 救いを求めるところも似ているところだと思いますので、出だし、終わりのところが特 につながりが見えます。

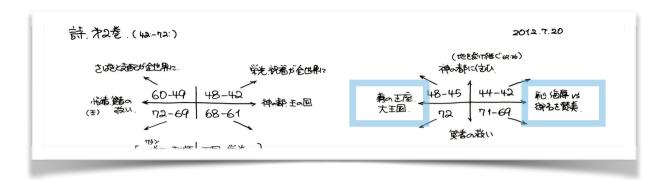


それと、真ん中の49篇から68篇までのところで戦いのことが何度も出てくるという 意味でこの外側2つと真ん中2つというのをよく見たほうがいいでしょうということです。



各一つずつの段落の分析をしたものは、別のホワイトボードを見てください。

72篇も4つに分けて考えています。42篇から44篇、これは44篇を2つに分けて4つの段落。69篇から71篇のこの3つは、69篇を2つに分けて4つの段落として見ていますので、それぞれをくらべてください。特に、口、舌、ことばの戦い、それと恥と賛美というようなことばが何度も出てきます。



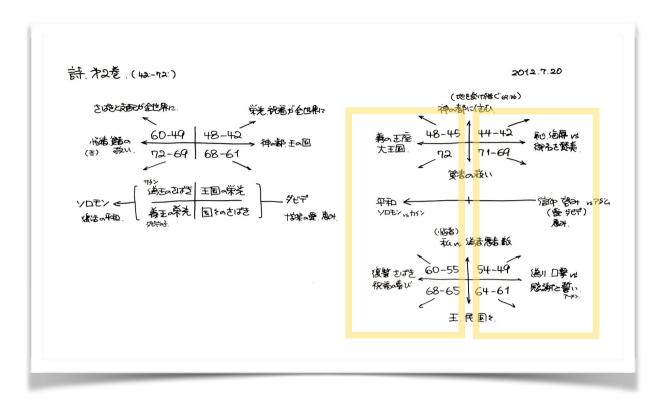
それで、45篇から48篇と72篇を見れば、こちらは神の都が完成してすべての国がひれ 伏す。72篇で約束の王が来てその支配が全世界に広がっているというつながりです。そ の王様の支配は、恥と侮辱、神の御名を賛美すること、その恥と侮辱との戦いの中で救 われて一気に変わるというところです。



49篇から54篇のところも55篇から60篇の中も口や舌、偽りで攻撃してくることに対して感謝と誓い、いけにえで戦っている。口や舌で攻撃してくるけれども神様の裁きが行われる。偽り者、悪者、犬とか蛇とかの例えにも出てくる、そのサタン的なものと戦っているときに口とことば、偽りのことばと主に信頼していることを表す感謝といけにえ、誓いというものが対抗しているものになっています。

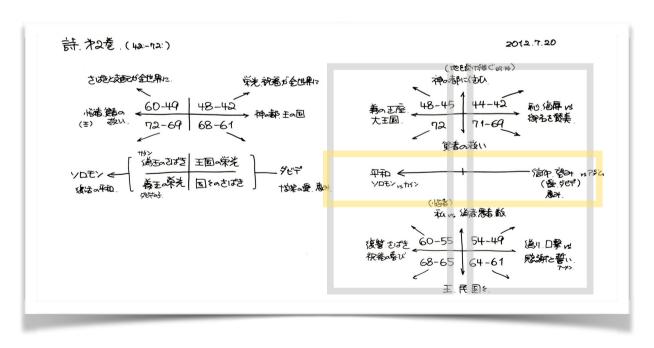


ほむべきかな神というので72篇が終わっています。ほむべきかな神というのは、65篇 からのところにも何度か出てきます。神様が祝福するという言い方と私たちが神様を祝福するという両方、応答がありますけれど、神様を祝福するというのが、ほむべきかな神という言い方です。それもこの中(49-54,65-68)に書かれています。



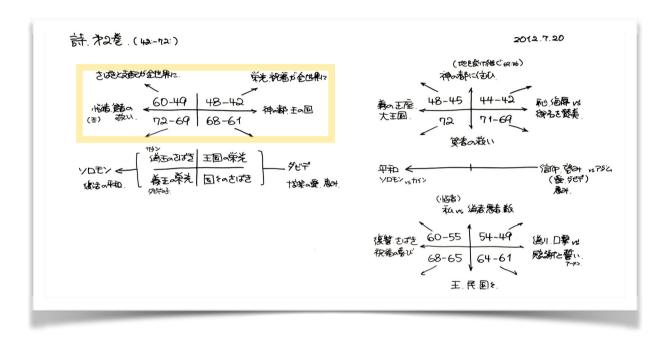
(右側の)42篇から44篇、69篇から71篇、それに対しての勝利がこちら左側の(45-48,72)、という形で書かれていると思います。

こちら側(右側の)42篇~、69篇~、49篇~、61篇~のところと、あちら(左側)45篇~、72篇と55篇~、65篇~を見てみると、こちら(右側)はまだ戦い中のような感じです。戦い中の人たちは信じる、待ち望むということで戦っています。それに対して(右側は)勝利が与えられて裁きが行われる、復讐される、祝福が与えられるということでこちら側(右側)は終わります。



信仰と望みを持って戦ったことに対して平和の祝福が与えられるということなので、 第2巻全体が神様を愛するダビデの戦いと、その約束の子であるソロモンが平和の国を 作り上げるということがこの各段落間で平行して語られていることでしょうということです。

ここにアダムとカインと書いてありますけれど、ダビデに対して神様の愛を捨てたアダム。それと、本当はソロモンの平和を得なければならなかったのに、アダムの子カインは血を流す者になりました。平和を憎む者となりましたということで、敵のほうはカイン的なもの、ダビデが戦っているのはアダムのような信仰と戦っているということです。信仰の望みと平和、ダビデとソロモンというようにこの2つが分けられると思います。



42篇~48篇、69篇~72篇、49篇~60篇、61篇~68篇という4つの段落の平行としても見ることができると思います。この中にダビデ、ソロモン、グロモン、こちら(右上と左下のクロス)の平行は、出だし(42-48)と終わり(69-72)のところは、栄光、祝福が全世界に行きますよということです。こちら真ん中の2つ(61-68,49-60)は、裁さと支配が全世界に広がりますという話。42篇~、61篇~こちら側は神の都、王様の国が建て上げられること。49篇~、69篇~のほうは、貧しい者の救い。それで、ここに悩む者と書いてあります。偽りの者、悪者、敵に対しての攻撃で苦しんでいる私、それを悩む者と表現されるものと思います。



悩む者の救いということなので、「王国の栄光」「王の栄光」「偽り者の支配者サタンのさばき」と「国々のさばき」ということが全体のこの第2巻、「ダビデの愛」から「ソロモンの平和へ」というのが、第2巻の全体の流れだと思います。